

令和8年2月27日

## 令和7年度とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	千代田区立麴町幼稚園
所在地	千代田区麴町2丁目-8-2

### 1. 活動のテーマ

#### <テーマ>

- ①様々な素材と出会う造形活動を中心とした表現遊び
- ②自然とのふれあいからの学び

#### <テーマの設定理由>

(テーマに関する子供たちの興味関心、園の特色など)

- ①様々な素材と出会う造形活動を中心とした表現遊び
  - ・作ったり描いたりするなど描画、制作活動が好きな幼児が多い。さらに幅広い表現方法に触れて楽しみ、じっくりと取り組みながら、自分なりの探究を深められるよう、本テーマを設定した。
- ②自然とのふれあいからの学び
  - ・園庭の自然や飼育栽培など身近な生き物に関心を寄せる幼児が多く、触れ合いを楽しんでいる。進んで観察したり自ら図鑑で調べたりするなど積極的に関わろうとする姿も多い。このような持ち味を生かし、「何でだろう」「もっと知りたい」という思いをもって探究する楽しさを味わってほしいと考えた。

### 2. 活動スケジュール

- ①様々な素材と出会う造形活動を中心とした表現遊び  
5/19、11/21、2/6
- ②自然とのふれあいからの学び  
6/18、10/21、2/9

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ①様々な素材と出会う造形活動を中心とした表現遊び
  - ・アトリエのように保育室を一室使い、伸び伸びとじっくり取り組める環境を設定した。
  - ・講師と相談し、関心をもちそうな素材や道具を準備し、幼児の興味や活動によっていつでも提示できるように準備した。
- ②自然とのふれあいからの学び
  - ・実際の自然物や生き物を見ながら、さらに興味関心、探究を深められるよう、「北の丸公園」や「園庭」などの実際の場で活動を行った。その際、専門家とともに自然物に関わる機会を通して新たな知識に触れて学び、喜びや面白さを感じられるようにした。
  - ・様々な側面から自然への興味関心・探究を深められるよう、図鑑・顕微鏡・虫眼鏡などの道具を用意した。

#### 4. 探究活動の実績

##### <活動の内容>

###### ①様々な素材と出会う造形活動を中心とした表現遊び

- ・多様な素材や技法に出会い、興味関心をもって関わった。関わる中での気付きや発見、感じたことなど幼児の心が動いた方向に遊びを広げていった。
- ・経験を広げる中で、試したり繰り返したりしながら自分なりの表現の探究を深めた。

###### ②自然とのふれあいからの学び

- ・専門家とともに、幼稚園の身近な生き物に改めて気持ちを向ける機会を通して発見や気付き、新たな自然の知識を楽しんだ。
- ・自然に親しむための多様なアプローチ方法に出会う環境を整え、友達と思いや気付きを伝え合いながら探究し、さらに興味・関心を深めていった。
- ・専門家同行の園外活動では、自然環境での遊びを楽しみ、五感を使って探究を深めた。

##### <活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

###### ①様々な素材と出会う造形活動を中心とした表現遊び

教師も一緒に活動を楽しむ中で、幼児の表現を言葉にしたり、それを近くにいる幼児にも伝えたりして、幼児同士のつながりをもてるようにした。

###### ②自然とのふれあいからの学び

教師も一緒に活動を楽しむ中で、幼児の気付きを認め共感したり、疑問を学級で共有したりすることで、身近な植物や生き物への探究を深められるようにした。

また、①と②の両活動においてグループでの活動を取入れることで、同じグループの友達と対話したり協力したりできるようにした。

##### <活動の様子>

活動の様子が分かる写真を2枚以上貼付してください。

(HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。)



## 5. 振り返り

(振り返りによって得た保育者の気づき)

### ①様々な素材と出会う造形活動を中心とした表現遊び

- ・造形活動への苦手意識をもっている幼児が多い中で、正解のない自由な活動内容だったので、繰り返し楽しむ姿が見られた。
- ・普段の保育から親しんでいる落ち葉を用いた活動だったことで、より楽しんでいた。
- ・経験として使ったことがある道具でも新たな技法を知り、今までとは違う楽しみ方を知ることができ、活動や経験が広がった。
- ・準備物が多く特別な活動となるが多かったため、日常的に取り入れられるような工夫を今後考えていきたい。

### ②自然とのふれあいからの学び

- ・幼児の気付き、発見だけでなく、講師から新たな知識を得たことで幼児の更なる探究につながった。
- ・虫を探すためのポイントが分かることで幼児自身が考えたり、意欲を高めたりできた。
- ・「どうしてだろう」「こうしたらどうなるだろう」という幼児の疑問を学級全体に投げかけたことで、探究する気持ちが広がった。
- ・当日のみでなく、継続的に探究を深められるよう日常の保育にも上記の道具を提示し、自ら活動に取り入れて楽しめる環境を整えた。また、学級全体で考えたことについて次回の活動時に講師と連携して疑問を解決する手がかりをもらうことで幼児の更なる興味関心につながった。

以上